

一般社団法人 S.C.P. Japan

障がいの種別を限定しない女の子のための大会「女子パラフットボールフェスタ」を開催。事前に「リスペクト」の価値やセーフガーディングの基本方針を共有し、勝敗よりも「安心して選手が主体的に楽しめる」環境づくりを重視した大会を実現しました。

取り組み内容

2025年5月11日に、JFA夢フィールドで、障がいのある女の子のためのサッカー大会「女子パラフットボールフェスタ」を開催。普段、試合や大会の機会が限られている障がいのある女子選手がチーム単位で出場し、交流試合が行われました。

参加対象は障がいの種別を限定せず、「自立歩行が可能な方」とし、知的障がいや脳性麻痺のある小・中・高校生・大人が全国（神奈川・東京・千葉・静岡・大阪・京都）から集まりました。選手たちはサッカーの試合を通じて交流を深め、昼食会ではチームを超えたコミュニケーションも行われました。また、一般社団法人スマイルコンパスより登坂絵莉氏（レスリング）、岩淵真奈氏（サッカー）をゲストに迎え、直接交流する機会も設けられました。

事前には、引率指導者とオンラインでの打ち合わせを行い、「エンジョイ・チャレンジ・リスペクト」の価値やセーフガーディングに関する取り組み・行動規範について説明がされ、参加するすべてのスタッフ・ボランティア・ゲストが行動規範へ署名を行いました。

大会当日は、「セーフガーディングの約束（すべての子ども・選手が安心して活動に参加する権利、それを守るスタッフ・関係者の責任、子ども・選手たちへの協力をお願い）」を記載したリーフレットを配布・掲示し、内容の説明も行われました。また、ピッチには審判ではなく「ピッチマネージャー」を配置するなど、選手が主体的に安心して参加できる環境づくりが行われました。

子どもも含む幅広い世代の女性かつ障がいのある方が参加されるにあたり、安心して相談できる体制を整えて、イベントが行われました。

本取り組みは、障がいのある女の子・選手一人ひとりの安心・安全・尊重を中心に据えた、「リスペクト」が実践されているものです。大会前には引率指導者向けのオンライン説明会が実施され、「リスペクト」の価値やセーフガーディングの基本方針を共有。勝敗よりも「安心して選手が主体的に楽しめる」環境づくりが重視されています。

また、試合機会が限られている彼女たちにとって、チーム単位で参加できる大会形式は、自分の存在が肯定され、力を発揮できる貴重な場となります。その場が、選手同士が互いの頑張り刺激を受けたり、自信を深めながら、自然と尊重し合える関係性を育むことに繋がります。

これらの取り組みはすべて、障がいのある女子選手が安心して、力を発揮できる環境を整えること（＝リスペクト）を目指し、実践されています。自組織メンバーだけにとどまらず、すべてのスタッフ・ボランティア・ゲストへの「セーフガーディングの約束」署名や必要に応じた事前講習の実践は体系化されており、水平展開可能なロールモデルとなるものです。



参考資料リンク

[【報告】女子パラフットボールフェスタを開催いたしました！ | 一般社団法人 S.C.P. Japan](#)

[【イベントレポート】女子パラフットボールフェスタを初開催 | 一般社団法人 S.C.P. Japanのプレスリリース](#)

[インクルーシブフェスタチラシ](#)

[インクルーシブフェスタ報告書](#)